総務産業常任委員会所管事務調査

去る６月21日、総務産業常任委員会（藤田委員長）の所管事務調査が行なわれましたので、その様子を報告します。

■川上肥育センター運営管理状況について

平成26年３月末で施設の運営・管理委託業務が終了し閉鎖するにあたり、今年度中に、施設の今後の利活用について将来の方向性を見据え結論を出すべきと考える。

川上肥育センター牛舎

■堆肥製造センター外構工事

施設内の作業敷地が狭く車両の施設接触事故等が発生しており、安全確保のため施設内道路の幅員拡幅工事を実施しているが、当初設計に疑問が残る。

また、雪害による屋根軒先の破損については、現在、振興局と施工業者と協議中とのことであるが、現場の状況から施設管理並びに工法・使用材料等に問題はなかったのか十分な協議、検討が必要であり、今後の施設維持管理に重大な影響を与えることのないよう最善策を図られたい。

雪害により破損した
堆肥製造センターの軒先

■堆肥製造センター運営管理状況について

収支改善が最も重要な課題であり堆肥の効率的な販売策が求められる一方、施設建設の要望者でもある生産者や関係団体の堆肥の使用や販売協力は必須であり、今後とも生産者の負担軽減策も検討しながら販売収益の増収を図られたい。

製品化された堆肥の貯蔵施設

■旧花田家番屋防災設備改修予定及び利用状況について

入館者の安全・安心のため防災改修計画に基づき実施されたい。

また、入館者数は前年より5.9％減少しており月平均にすると900人程の減となる。利用者をリピーターとして望むのは非常に難しい施設であるが、宿泊体験等の事業を検討し施設の利活用に努められたい。

防災設備改修が予定されている『旧花田家番屋』